

腫瘍内科よりのご案内

平素より格別の御高配を賜り、有難うございます。立秋も過ぎたというのに暑さが身にしみる日々ですが、皆様お元気でお過ごしでしょうか。

和泉市立病院では、平成22年にがんセンターを創設して以来、診療科同士の協力、多職種によるチーム医療を推進してまいりました。同時に組織的に新しい治療方法を行うことができるよう今年4月より臨床研究センターを立ち上げました。

腫瘍内科はメンバーも新しく増え、外来、治療病棟、緩和ケア病棟のスタッフとともに日々仕事をしております。腫瘍内科の一日は、医師メンバー全員と看護の朝の申し送りから始まります。外来は月曜日から金曜日まで、毎日2名体制で、初診も毎日お受けしております。診察室（1診、2診、処置室）の隣は化学療法室で、行き来ができるようになっています。月曜日の夕方はがんセンターボードとして、各診療科、病理診断科、看護スタッフ、薬剤部とともに症例検討、金曜日のお昼はランチョンセミナーと抄読会。火曜日はPCU（緩和ケア病棟）判定会議をおこなっております。

当科は、その名のとおり、各種がんの診断・治療そして緩和ケアを行っております。

診断においては、内科、放射線科（診断部門）、病理診断科と協力して検査・診断をおこなっております。治療においては、切除を必要とする場合は外科系診療科にお願いすることになりますが、化学療法、放射線科治療、そしてそれらを組み合わせた治療をおこない、また看護部、リハビリのチームとともに緩和ケア病床の運営をおこなっております。

がんを疑った場合、何科に紹介するか迷われる場合があると思います。手術を念頭に置く場合は外科系診療科（外科、婦人科、泌尿器科等）にご紹介いただくことになりますが、どこに紹介したらよいか迷われる場合は腫瘍内科に紹介していただければ、連携して診断・治療が行えますので当科に直接ご紹介ください。地域医療の皆さまには紹介状を送っていただくお手間をおかけしますが、どうぞご理解の上、ご協力をお願いいたします。

微力ながら地域医療に貢献してまいりたいと考えておりますので、お気づきの点がございましたらご連絡くださいませ。

腫瘍内科 特別顧問 松井 薫

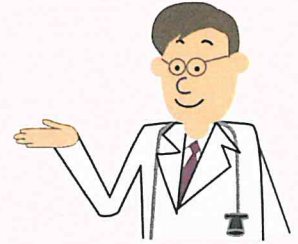
病院の理念



1. 患者さんの視点に立った安心・安全な医療の実践に務めます。
2. 患者さんに最適な医療を提供できるように努めます。
3. 新しいことにもチャレンジし、医療の質の向上に努めます。
4. 思いやりのある医療人の育成に努めます。

休診のお知らせ

耳鼻咽喉科	9月 1日(金)・8日(金)・29日(金)	阪本浩一 医師 休診
	9月19日(火)	西原美沙子 医師 休診 ⇒ 藤田 岳 医師 代診
眼科	9月 4日(月)	若山佳子 医師 休診
神経内科	9月 6日(水)・8日(金)	河合 滋 医師 休診
呼吸器内科	9月13日(水)	宮本篤志 医師 休診
泌尿器科	9月15日(金)	林 泰司 医師 休診
	9月19日(火)	玉井健太郎 医師 休診
脳神経外科	9月19日(火)・21日(木)	休診
皮膚科	9月19日(火)・20日(水)・21日(木)・22日(金)	林 恵理子 医師 休診
	9月25日(月)	福永淑恵 医師 休診
精神科	9月22日(金)	児玉裕也 医師 休診 ⇒ 宮本沙緒里 医師 代診



ご紹介 新任 医師

婦人科

部長

みやま まさと
深山 雅人



初めまして。婦人科に着任しました深山雅人と申します。

医師になり30年、ここ15年間は大阪市立総合医療センターで婦人科を中心にさまざまな経験を積んでまいりました。

当院はもともと泉州地区の婦人科腫瘍修練施設として悪性腫瘍の治療に果敢に挑んできた実績のある病院です。来年度には新病院移転もあり、婦人科の課題として低侵襲な治療への対応が重要と考えております。腹腔鏡手術を積極的に取り入れていく所存です。

一方、がん検診や女性ヘルスケアについても今まで通り推し進めてまいりますので、和泉市民に愛され頼りにされる病院を心がけていきます。よろしくお願ひします。



腫瘍内科

てらしま まさあき
寺嶋 応顕



はじめまして。4月より腫瘍内科に着任した寺嶋です。近畿大学医学部附属病院で研鑽を積み、この度近畿大学医学部奈良病院から転勤してきました。これまで主に肺癌・胃癌・大腸癌の抗癌剤治療を中心とした診療に従事してきました。

近年、分子標的薬や免疫療法の抗癌剤が次々承認され、選択肢が広がると同時に副作用も多岐に広がってきました。腫瘍内科医は抗癌剤治療の舵取りを担っており、患者さんの状態や病気の性状に合わせたがん治療を提案します。

また患者さんは抗癌剤の副作用のみならず、がんの診断と同時に様々な苦痛や気がかりに悩まれます。緩和ケアは、がん患者さんの苦痛や気がかりに焦点が当てられ、がん治療と緩和ケアは切っても切れない関係です。腫瘍内科医として患者さんの気がかりに気付けるよう頑張ります。宜しくお願ひ致します。